

銚子をかたち作る 3つの物語



関東最東端のまち、銚子。今月、ジオパークの全国大会が開かれます。日本で一番早い初日の出。水揚げ量日本一の銚子漁港。生産量日本一の春キャベツ。醤油醸造に適した環境。利根川東遷の歴史。貴重な地質遺産以外にも、歴史や文化、住んでいる人の暮らしなど、この地に深く関わるすべてが「ジオパーク」に含まれています。

太平洋に突き出したこの地には、どんなストーリーが：「大地」「黒潮」「利根川」この3つの要素を中心に銚子形成までの歴史を紐解く。文化財・ジオパーク室の学芸員に聞いてみました。

文化財・ジオパーク室(21)6667

大地

千葉県で唯一、1億年以上前の地層が分布する銚子。海の高さが現在と同じくらいだった約12万年前、関東地方は一面海でしたが古く硬い銚子の大地は侵食されず、孤島として残りました。



犬吠埼 恐竜時代の浅い海底の痕跡が見られる
江戸時代に流行した「銚子磯めぐり」の名所として親しまれてきた犬吠埼の地層は、約1億年前、恐竜が生きていた白亜紀という時代に海の底でたまったものです。



キャベツ畑と風車 気候の恵み。銚子ならではの風景半島の地形と暖流の黒潮により、冬温かい気候でキャベツやダイコンなどの冬の野菜作りが盛んです。半島を吹き抜ける強く安定した風を利用して、風力発電も盛んです。



「億年」という長い地球時間のスケールで作られた銚子の大地。土地の特徴を上手に活かし、銚子人は暮らしを営んでいます。

学芸員 岩本直哉さん

黒潮

江戸時代、紀州などから訪れた漁民や移住者が漁法や醤油づくりの技術と知識を伝え発展しました。これらは銚子を代表する産業として、今でも発展し続けています。



海産物 日本屈指の良好な漁場を形成
銚子沖で水温の高い黒潮と栄養豊富な親潮が混ざるとプランクトンが大量に発生し、魚が集まる。利根川からの陸の栄養も合わさり、200種類以上の魚が水揚げされます。



外川の町並み イワシ漁で「外川千軒大繁盛」
紀州から移住した崎山治郎右衛門が17世紀中頃に港と市街地を整備。地質や地形も重要で斜面の上の平らな土地は干鰯場として利用されました。



銚子漁港の年間水揚げ量は12年連続日本一!

学芸員 常世田優紀さん

利根川

水害から江戸を守ることや、水上交通網を整備するため、「利根川東遷」と呼ばれる土木工事が行われ、利根川は今の流路になりました。物流の拠点として繁栄したほか、利根川水運により江戸からの観光客でも賑わいました。



樽を運ぶ高瀬船(千葉県立中央博物館大利根分館提供)

銚子醤油 湿度が高い銚子の気候は麹菌がよくはたらく
銚子から江戸まで醤油樽を運んで売りさばき、帰りは原料の塩や大豆を調達するという、醤油の製造・販売・原料調達の流れが利根川水運によって可能になりました。



銚子縮 鮮やかな藍染めと肌触りが江戸で流行
農家や漁家の妻たちが副業で作った木綿織物。生地裏表で柄が違うなど、江戸の粋を表すといわれ人気を得ました。千葉県伝統的工芸品と千葉県無形文化財に指定されています。



利根川水運のおかげで江戸と銚子が繋がる「ヒト・モノ・文化」が出会い町として発展しました

学芸員 上田脩郎さん